

町村議会広報コンクール

第35回町村議会全国広報コンクールにおいて、愛荘町議会が表紙デザイン賞 銅賞を受賞しました。



受賞した57号議会だより(令和2年5月発行)表紙



インターネットでも
配信しています!

愛荘町ホームページから
<http://www.town.aisho.shiga.jp>
トップページのここをクリック



本会議(場所 議場)		
◎ 6月 3日(木)	一般質問(6月議会開会)	9:00~
◎ 6月 4日(金)	一般質問・議案審議	9:00~
◎ 6月 18日(金)	議案審議(6月議会閉会)	10:00~
常任委員会(内容 事務事業の進捗状況)(場所 第4会議室)		
6月 8日(火)	総務産業建設常任委員会	総務部門 9:00~
6月 9日(水)	総務産業建設常任委員会	産業建設部門 9:00~
6月 10日(木)	教育民生常任委員会	民生部門 9:00~
6月 11日(金)	教育民生常任委員会	教育部門 9:00~

上記の本会議・委員会を傍聴できます

(都合により、会議の日時が変更になる場合があります)
会議時間の詳しくは事務局へお問い合わせください。

議会事務局：TEL 42-7670
FAX 42-7698

6月定例会の予定

あなたも議会を
傍聴しませんか。

SDGsがポスト コロナの道しるべ

Q コロナ禍の中、地域コミュニティを元に戻すには

A 以前の繋がりを取り戻す感染症対策と自治会活動を



伊谷 正昭 議員

持続可能な開発目標
SDGsの推進について

Q SDGsを取り込んだまちづくりを具体的にどのような計画で進めるのか。

答 (企画担当政策監)
SDGsの「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂のある社会の実現の理念は、当町が掲げる「愛着と誇り、人とまちが共に輝く、みらい創生のまち」という方向性と合致し、総合計画に基づくみらい創生戦略、教育大綱・教育振興基本計画等を含めた各種計画でも、SDGsの考え方を取り込んでいる。引き続き、活力あるまちづくりに向け、総合計画を統一感をもってSDGsを推進していく。

問 「誰一人取り残さない」というまちづくりに向け、SDGsの考えを町民生活にどのように浸透させていくのか。

答 (企画担当政策監)
持続可能なまちづくりの実現等にあたり、住民の方も、その考え、理念等理解をいた

だけ、認知度向上に向けた取り組みを推進していくことが必要で、県主催の滋賀SDGs交流会の参加、SDGsセミナーへの町職員の派遣を実施。住民の方にSDGsの特徴に合わせて理解いただくよう、認知度向上に向けた取り組みを引き続き推進していく。



問 町民に対して、効果的かつ持続可能なまちづくりに向けた仕組みを、どのような形で示していくのか。また、どのような啓発活動を行うのか。

答 (企画担当政策監)
SDGsそのものやその立脚する考えは、認知度向上を

図る必要がある。様々な機会をとらえ、広報・啓発等を実施していく、各種計画策定の際は、多くの計画で概要版を作成、住民に分かりやすい問題意識、方向性等の共有に努め、引き続き住民目線に立った情報発信を行う。SDGs及び持続可能なまちづくりの実現のため、行政のみならず、様々な関係主体の参画のう え、啓発に力を入れていく。

問 脱炭素社会に向けて積極的に取り組む明確な意思表示を。

答 (町長)
地球温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代が終わり、国際的にも成長の機会と据えられる時代に突入し、町としても持続可能なまちづくりを希求するにあたり、時代の潮流に合わせて、脱炭素化に向けた取り組みを積極的に進める必要がある。すでに実施している温室効果ガス削減に向けた取り組みを継続し、温暖化対策を経済と環境の好循環を作っていくための産業政策として据えていくことも必要と考える。

問 コロナ禍のなか、地域コミュニティの復元力を高めることが重要であると考えるが、町長の思いと対応策について。

答 (町長)
コロナ禍により、多くのイベント・催しもの等が中止のものとしてきた地域のつながりが希薄化する懸念が生じている。

今年度、自治会における感染症対策に関する経費等を補助する事業を実施し、既に多くの自治会に利用していた。引き続き、自治会活動を両立させていく観点から、そのための自治会の取り組みをしっかりと支援していく。

※「SDGs」とは持続可能な開発目標は国連で採択された「未来の私たち」で、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなになど経済・社会・環境にまたがる17の目標で、2030年までに達成を目指している。